

# OCHAで働くために

国連人道問題調整事務所(OCHA)

United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs

外務省 国際協力局 緊急・人道支援課

外務省国際機関人事センター

<https://www.mofa-irc.go.jp>



UN Photo/John Isaac

# Index

国連人道問題調整事務所

(United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: OCHA)

---

●はじめに	・・・	3
●OCHAとは	・・・	4
OCHAについて	・・・	4
日本とOCHA	・・・	5
●OCHAで働く日本人	・・・	6
●OCHAで働くために	・・・	8
応募要件・求められる人材	・・・	8
応募方法	・・・	10
●インターンシップ・プログラムについて	・・・	13
●お問い合わせ	・・・	14

# はじめに

OCHAジュネーブ本部  
調整局・緊急対応支援部  
民事軍事連携課  
近藤雅世



国連人道問題調整事務所（United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: OCHA）は、世界で最も深刻な人道危機に対応している人道支援団体の取りまとめを任された国連機関です。紛争や自然災害によって生活を脅かされている人々に、適切な支援を速やかに届けるため、効果的で、人道基本原則に則った支援活動を推進しています。

日々の仕事は、前線での人道ニーズの把握、支援団体間の連携の促進から安全確保に向けた政府や非政府軍との交渉まで多岐にわたります。また、国際的な人道支援政策の形成、活動資金の調達や啓蒙活動を主導し、支援団体の活動を様々な形で支えています。

OCHAの前身である人道問題局（Department of Humanitarian Affairs）以来、私は自然災害に対する各国政府の緊急対応能力の評価や準備、計画、研修、訓練などに関わってきました。2015年の仙台国際防災会議においては、国連事務次長補（人道問題担当）と仙台防災枠組2015-2030へのOCHAの支援もアピールしました。現在はOCHA職員と人道分野のパートナーのために、紛争に関する分析能力の向上を目指した研修プログラムを作成中です。

このようにOCHAは、それぞれの分野で、困難な状況にあっても冷静かつ柔軟に解決策を模索して行動する、意欲に満ちた人材を広く募集しています。NGO、国際赤十字・赤新月運動や各国政府において国際協力に関わってこられた方々や、政治分析、情報管理、報道、軍事、法律分野関係者、また基金運用や総務、経理などの管理部門等の人材も求めています。紛争や自然災害から逃れて、尊厳のある生活を求めて綱渡りのような暮らしを余儀なくされた人々のために、あなたの能力と熱意を傾けてみませんか？

# OCHAとは

## OCHAについて

### 概要：

正式名称は、国連人道問題調整事務所 (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: OCHA)。国連事務総長が直接率いる国連事務局の一部として、1991年12月に国連総会決議46/182によって人道問題局 (UNDHA) が設立され、1998年に国連総会決議 (52/168) に基づき OCHAへと発展しました。自然災害や紛争などの人道危機の際、人道支援の関係機関が一貫した対応を取れるよう、調整することが役割です。主に緊急・人道支援活動の調整、資源の動員、円滑かつ効果的に支援活動を進めるための情報管理、啓発・理解促進、国際的な人道課題に関する政策形成などを担っています。

OCHAのトップは国連緊急援助調整官を兼務し、人道問題分野で国連事務総長を補佐します。

### 職員数：

2020年2月現在、50ヶ国以上で2,100名を超えるスタッフが活動しています。

### 所在地：

本部はニューヨークとジュネーブ。地域事務所は、アジア太平洋、中東・北部アフリカ、西・中央部アフリカ、南・東部アフリカ、ラテンアメリカ・カリブの5か所。またアフリカ、アジア、中南米など52ヶ国に国別事務所や人道アドバイザー・チームがあります。

### 参照：

OCHA ホームページ: <https://www.unocha.org/>

OCHA Facebook: <https://www.facebook.com/UNOCHA>

OCHA神戸ホームページ: <https://www.unocha.org/japan/>

OCHA神戸Facebook: <https://www.facebook.com/OCHAKobe>

## 日本とOCHA

- 日本は1956年12月に国連に加盟しています。
- 1957年2月に日本人初の国連職員となった明石康氏は、1996-1998年にOCHAのトップである人道問題担当国連事務次長を務めました。2001-2003年には大島賢三氏が同職に就いていました。
- 2011年3月の東日本大震災の際には、日本政府の要請に基づき世界に英語で情報発信すべく、国連災害評価調整チーム（United Nations Disaster Assessment and Coordination: UNDAC）を東京に派遣し、現地視察も実施しました。
- OCHAが運営する国連中央緊急対応基金(Central Emergency Response Fund: CERF)へは日本政府が毎年拠出しています。またその活用について緊急援助調整官に提言等を行う「CERF諮問グループ」のメンバーに、2008-2011年は鶴岡公二外務省総合外交政策局長、2012-2015年は特定非営利活動法人「難民を助ける会」の長有紀枝氏、2016-2019年は特定非営利活動法人JENの木山啓子氏が就任していました。
- 2016年にイスタンブールで開催された「世界人道サミット」の北・南東アジア地域準備会合は、2014年7月に東京で開催されました。

### OCHAにおける日本人職員数（専門職）の推移

	2017	2018	2019
P 5	0	0	1
P 4	7	6	6
P 3	3	2	4
P 2	0	1	2
P 1	0	0	0
計	10	9	13

各年12月末現在

# OCHAで働く日本人

OCHAニューヨーク本部  
情報管理局 デジタル・サービス課  
セクション・チーフ  
中川聡子さん



1995年にJPOとして国際労働機関（ILO）に入職し、国連職員になりました。在職中に国連競争試験（現在のYPP）に合格し、OCHAのニューヨーク本部に配属されて以来、OCHAに勤務しています。ニューヨークで情報担当官として4年ほど勤務した後、インドネシア、ソマリア、ミャンマー、神戸などの現地事務所を経て、2011年にニューヨーク本部に戻りました。

現在はOCHAの5つの活動分野の1つである「情報管理」の中でも、デジタル・サービスを管轄する部門のチーフです。世界の人道情報を、デジタル・プラットフォームを通じて24時間体制で公開すべく、世界各地で働くスタッフを統括しています。また、大小100近くあるOCHAのデジタル資産の技術的サポートを集約し、効率化を図る業務などに携わっています。

OCHAで働くことの魅力は、ジェネラリストならではの醍醐味です。その時々が多岐にわたる人道的課題への対応を調整していくことは、OCHAで働く面白さでしょう。国連本部としての幅広い視点や、NGO等も含めた人道コミュニティの視点から、課題を俯瞰的に捉えるアプローチも魅力です。さらに、情報管理はOCHAの業務の中でもとりわけ評価や顧客満足度が高く、やりがいがあります。

これまでは主に広報や情報管理、資金管理等を歴任してきましたが、今後新たなフロンティアがあれば、挑戦したいと思います。また機会があれば、一国の課題に集中して取り組めるフィールド業務に戻りたいです。

一つのアジェンダに特化した国連専門機関と違って、OCHAは世界の人道状況に応じてアジェンダを作っていく集団です。柔軟で順応性が高く、自分にはまだない専門性やスキルが求められてもチャレンジするタイプの方に向いているかもしれません。スペシャリストもジェネラリストも、OCHAでの経験はご自身のキャリアの幅を広げることになると思います。

OCHAスーダン事務所  
人道問題担当官・人道調整官付  
特別補佐官  
鬼木達矢さん



2017年4月にJPOとして派遣されて以降、スーダンの首都ハルツームにあるOCHA事務所に勤務しています。それ以前は、ルワンダやフィリピンの日本大使館に勤務していました。ルワンダでは経済協力調整員として日本政府の開発支援や難民支援に携わり、それが人道支援や開発援助分野の国連機関で働くことを志す一つのきっかけになりました。

スーダンでは、紛争をはじめ、洪水や干ばつ等の自然災害や感染症の蔓延によって、多くの人々が人道支援を必要としている状況です。私は会議の手配や資料・記録の作成を行うほか、人道支援活動を行う国連機関・NGOから成る「スーダン人道カントリーチーム」の補佐業務も行っています。人道調整官に同行して、支援の現場を訪れることもあります。

OCHAは直接支援活動をする訳ではありません。しかし、被災者が求める支援を効果的かつ迅速に届けられるよう多数の関係機関の調整や連携を促したり、アドボカシー活動を行っています。情報収集も容易ではない中、スピードが求められるため、プレッシャーもありますが、その意義を実感し、貢献できることにやりがいを感じています。

個人的には今後、他のフィールド業務や本部業務も経験してみたいと思います。また緊急人道支援から中・長期的な開発支援につなげるような業務にも携わりたいです。

これからOCHAを目指す方には、まずはOCHAの業務を知り、興味を持って頂いた上で、ご自分の経歴や専門分野と繋げて入り口を探して頂ければと思います。OCHAには、情報管理や人道ファイナンス、総務など、幅広い業務があります。人道的に厳しい状況を目にすることもあるので、忍耐力や柔軟性、心身の強靭性、コミュニケーション力や協調性も大切な資質でしょう。ぜひご自分の強みや資質を活かして、キャリアをご検討下さい。

# OCHAで働くために

## 応募要件・求められる人材

国際機関では、「語学力」「学位（修士号以上の学位が望ましい）」「専門性」があることが求められます。

- 語学力：英語又はフランス語で業務遂行可能なこと。その他の国連公用語や希望する勤務地の現地の言語などができると望ましい。
- 学位：応募するポストと関連する分野の修士号以上の学位を取得していることが望ましい。
- 専門性：応募するポストと関連する職務経験が一定以上あること

OCHA職員に求められる特性には主に以下のものがあります。

- プロフェッショナリズム：ポストに関連する分野における知識とスキル、問題解決能力、分析能力、極度のプレッシャーの中でも働ける能力、求められる成果を時間通りに上げる責任感やコミットメント、ジェンダー平等の視点等
- コミュニケーション能力：明確かつ効果的に話したり書いたりする能力、対象に合わせて言葉やスタイル、フォーマットを調整できる柔軟性、常に双方向のコミュニケーションをしようとする態度、情報共有に対してオープンな姿勢等
- チームワーク：チームの一員として機能出来る能力、他の人々の立場や意見を尊重する協調性、自分個人よりもチームとしてのゴールを優先する姿勢等
- 責任能力：業務に対するコミットメント、自分の仕事を定められた時間と予算の中で、求められるクォリティでこなす能力、組織の規則やルールに準じて業務を遂行する能力、部下を監督、指導する能力等



募集の多いものには、主に以下のような職種があります。

- Humanitarian Affairs Officer
- Information Management Officer
- Public Information Officer
- Administrative and Finance Officer
- Programme Officer



## 応募方法

OCHAで働くためには、以下の方法があります。

- 国連事務局ヤング・プロフェッショナル・プログラム（YPP）試験への応募

国連事務局試験YPPは、OCHAを含む国連事務局が若手職員を採用するための試験です。募集対象分野は毎年異なります。

年に一度試験が行われ、書類審査、筆記試験、面接を経て、合格した方はロスター（合格者名簿）に掲載されます。合格後はポストの空き状況に応じてロスターの中から選考が行われ、ポストに採用されます。ポストに採用されると2年間の任期で勤務し、勤務中の成績が優秀であれば引き続き雇用されます。

詳細は国連事務局の採用ウェブサイトに掲載されていますので、ご確認下さい：<https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=NCE>

### < 応募資格 >

- （1）日本国籍を有し、32歳以下（受験年の12月31日現在）であること
- （2）英語またはフランス語で職務遂行が可能であること
- （3）募集分野に関連する学士号以上の学位を有すること

- ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー (JPO) 派遣制度への応募

JPO派遣制度は、各国政府の費用負担を条件に国際機関が若手人材を受け入れる制度で、外務省では本制度を通じて、35歳以下の若手の日本人に対し、原則2年間国際機関で勤務経験を積む機会を提供しています。

JPOは派遣期間終了後、正規職員として派遣先機関やほかの国際機関に採用されることが期待されますが、自動的に国際機関の正規職員になることが保証されるものではありません。派遣期間終了後に正規職員となるためには、通常の手続きに従って空席ポストに応募して採用される必要があります。

JPOとして派遣されるためには、外務省が実施するJPO派遣候補者選考試験を経て国際機関による内定を得る必要があります。JPO派遣候補者選考試験は、通常年1回実施しています。募集要項は、国際機関人事センターのホームページに掲載されます。

<https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/index.html>

< 応募資格 > 2020年度試験の例（翌年度以降は各年度の募集要項をご確認ください。）

(1) 2020年2月1日現在、35歳以下であること。

(生年月日が1984年2月2日以降であること。)

(2) 以下の両方を満たすこと。

ア 外務省が派遣取決めを結んでいる国際機関の業務に関連する分野において修士号を取得したか、または修士号を2020年7月末までに取得見込みであること。

イ 外務省が派遣取決めを結んでいる国際機関の業務に関連する分野において2020年7月末までに2年以上の職務経験を有すること（アルバイト、インターン等は職歴とみなさない）。

(3) 英語で職務遂行が可能であること。

(4) 将来にわたり国際機関で働く意思を有すること。

(5) 日本国籍を有すること。

- 空席公募への応募

職員の退職、転任、転出、あるいはポストの新設によってポストに欠員が生じた場合に公募されます。応募したい空席ポストがあり、資格要件を満たしている場合には、ホームページから所定の応募フォームに記入の上、直接応募して下さい。応募後、書面審査が行われ、応募者の専門性・勤務経験が、空席ポストに合っているか否かが審査されますので、空席の職務内容を十分に踏まえて応募する必要があります。

またOCHAには、緊急時に最長6ヶ月まで派遣可能な外部の優秀な人材を登録する「アソシエイト・サージ・プール (ASP)」制度があります。ASPに登録された人材は、緊急時発生後、即時に派遣され、上記の空席公告による採用プロセスを経た職員が着任するまで任務を担当するほか、緊急対応以外の臨時採用の選考対象にもなります。ASPでの経験を経て、OCHAに長期的に勤務する職員も少なくありません。ASPに登録する人材も空席公募で募集します。

OCHAの空席公募の情報は、以下に掲載されています：

<https://careers.un.org>



OCHA/Htet Htet Oo



OCHA/Otto Bakano

# インターンシップ・プログラム について

OCHAでは大学院生、学部最終学年、または各課程修了から1年以内の方を対象に、随時インターンシップのプログラムを設けています。英語で職務遂行が可能であること等の条件があり、無給かつ旅費、滞在費等は自己負担ですが、国際機関での勤務体験ができる機会です。インターンシップ・プログラムの詳細な情報や応募用紙は 以下に掲載されていますので、直接応募してください。

<https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=IP&lang=en-US>



# お問い合わせ

- OCHAに関する一般的なご照会

## OCHA神戸事務所

ホームページ: <http://www.unocha.org/japan>

Tel.: 078-262-5555

E-mail: [ocha-kobe@un.org](mailto:ocha-kobe@un.org)

- 空席情報などについてのご照会

## 外務省国際機関人事センター

外務省国際機関人事センターでは、ホームページに国際機関の採用に関する情報、応募書類の書き方や面接対策などの情報を掲載しています。また、FacebookやTwitterでも空席情報や、国際機関就職ガイダンスなどのイベント情報を発信しています。

ホームページ: <https://www.mofa-irc.go.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>

Twitter: <https://twitter.com/MOFAjinjicenter>

E-mail: [jinji-center@mofa.go.jp](mailto:jinji-center@mofa.go.jp)

(令和2年2月作成)